

第1回 香川県海岸保全基本計画変更検討委員会 議事録

日 時：令和7年1月9日(木) 9:30～11:30

場 所：香川県庁 本館12階 第3会議室

出席者：白木委員長、池田委員、柴田委員、嶋野委員、末永委員、野々村委員、三矢委員、
柳川委員、好井委員、事務局（13名：港湾課、河川砂防課、水産課、土地改良課）

○開会

高橋港湾課長挨拶

○委員紹介

○委員長の選任

白木委員長選任

○会議の公開・非公開の決定

白木委員長

本委員会については原則として公開することとし、個別の議事内容について、非公開とすべきとの意見があれば、適宜、委員会が決するということをご了解いただけるか。

各委員

異議なし

○議事概要

（1）将来外力の推算について

委員

2℃上昇を基本とする方針で良いが、4℃上昇シナリオについても起こり得る事象であるということを留意しておくべきである。

事務局

4℃上昇シナリオにおける台風の中心気圧の変化量は確認した上で、2℃上昇を前提とした検討を進めていきたいと考えている。

予測には不確実性もあることから、今後も気温や海面上昇の動向を確認し、将来的には基本計画の再変更が必要となる可能性もある。

委員

津波計算に関して、最終的には香川県のすべての海岸を対象とするという認識でよいのか。

事務局

香川県全域で津波の高さが上がることは考慮するが、方法としてシミュレーションを実施するか、現行計画の津波水位に39cmをそのまま足すかということになる。代表海岸（志度湾）においてモデルの再現性や、潮位が39cm上がったことによる津波水位の挙動変化について確認している。

委員

シミュレーションには地形変化が影響する。沿岸部において将来的に建設計画があるなら考慮しておく必要がある。

（２）海岸の整備方針について

委員

海面水位が上がると砂浜の断面形状が変化するため、一般的に、現在の地形のまま水位を上昇させた場合より海岸線は後退すると言われている。令和２年に変更された海岸保全基本方針にも示されている「予測を重視した順応的砂浜管理」の考え方も参考にして気候変動の影響による外力の長期変化に加え、砂浜への影響も念頭に置いて全体の検討を進めていただきたい。

委員

南海トラフの地震が発生すれば海岸の状況は一変するため、気候変動への対応は、発災後の対応になるかもしれないが、砂浜への影響も留意していただきたい。

委員

長期的な視点での土地利用や人口の変化も考慮し、都市計画と合わせて考えていただきたい。また、砂浜減少の対策も考えていけば環境との調和にもつながる。

委員

将来、39cm～74cmも海面が上昇すれば常時浸水する施設も出てくると思われる。砂浜の侵食が進行している実感もある。

航路浚渫も砂浜侵食の一因である。瀬戸内海の手砂は非常に長い時間をかけて堆積したと言われており、我々の時代で手砂を取り戻すことはできないが、温暖化は我々で防がなければならない。

事務局

砂浜減少の対策については、前回の計画変更から10年経過していることから、海岸の現況を確認したうえで、気候変動の影響も考慮した整備方針を検討していきたい。

委員

単純に堤防の嵩上げをするだけでなく、背後地地盤も含めた整備も想定しておくことも重要。そのためには地元の方の意見をヒアリングする等の取り組みも必要ではないかと感じた。

事務局

背後地地盤も含めた堤防の整備について、設計段階でのヒアリングも必要であり、整備が想定される海岸については皆様からのご意見もいただきながら、整備に反映できるか検討したい。

（３）防護・減災、環境・利用との調和について

委員

最近、海藻によって海水温が低下することが数値として具体的に示された。海水温の上昇を抑制するという新たな機能を踏まえた評価についても、海岸保全基本計画の中に位置付ける必要があると感じている。

委員

香川県は元々砂浜が少なく、海水浴等の海遊びができる場所も少なくなっている。人との関わりが失われると海は死んでしまう。瀬戸内海の海を豊かにするために、海と人との関わりという点についても留意していただきたい。

事務局

豊かな海を形成するために、藻場や水生生物に配慮した工法等環境に配慮した計画についても検討していきたい。

委員

瀬戸内海は特に海岸線、島嶼部が観光資源となっており、瀬戸内国際芸術祭が開催されるなど香川県の重要な財産となっている。海面上昇や南海トラフ地震への対策は優先的に実施していく必要がある一方、観光資源の保全との兼ね合いを見極めていただきたい。

事務局

瀬戸内国際芸術祭をはじめ、瀬戸内海は観光資源になっていることは認識している。観光に配慮した計画についても検討していきたい。

（４）海岸保全基本計画変更の進め方について

委員

温暖化により具体的にどのような状況の変化が起こるかについて、過去の経験を元に考えておく必要がある。

地元の人、沿岸部に近い人、海岸から離れた方、観光の面、漁業の面からいろいろなご意見を反映することも重要。過去に実施されたアンケート等を参考にするのもよい。

委員

地元の方の歴史的な証言なども重要な情報である。

委員

県民の生活や周辺環境が一変することに対してどのような対策を取れるかを検討していきたい。

委員

気候変動の予測には不確実性がある。必ずしも遡って再検討する必要はないと思うが、随時示される最新の知見を確認しながら進めていただきたい。

委員

防護の重要性は揺るがないが、背後地域、環境、利用との関係を踏まえて検討を進めていくことが重要。

事務局

防護・環境・利用の調和がとれた計画とするため、防護水準を定めていく中でどういった取り組みができるのか検討していきたい。

（５）まとめ

白木委員長

事務局から示された方向性について、委員の皆様から賛同いただけたものと思っている。事務局は、本日の意見を踏まえ、次回以降の委員会で議論を進めていただきたい。

○閉会